

平成 13 年度 業績見通しおよび中間配当について

当社の平成 14 年 3 月期決算につきまして、その見通しをお知らせ致します。

1. 連結業績見通しについて

上半期の我が国経済は、国内での民間設備投資、住宅投資の減少に加え、輸出についても世界経済の減速を背景として大幅な減少がみられるなど、景況感はさらに悪化の度合いを強めつつあります。

当社および関係会社におきましては、NKK（日本鋼管株）との経営統合を見据え、連結での業績基盤を一層強固なものとするべく収益改善活動に取り組んでおりますが、景況悪化の影響を受け、鉄鋼事業では、グループ会社を中心として当初見通しに比べ悪化が予想されます。また他のセグメントにおいても、IT 関連産業の失速や世界経済の減速の影響により、ほぼ全般にわたり悪化が見込まれることから、上半期の連結業績につきましては、営業利益・経常利益ともに 5 月時点での予想値を下回る水準となる見通しであります。

下半期につきましても、上半期同様厳しい経営環境が続くものと予想され、また今後在庫調整の影響も懸念されるものの、建設需要をはじめとした季節要因による好影響も見込まれることから、下半期の営業利益および経常利益は上半期を上回る水準が確保できる見通しであります。

特別損益につきましては、転籍者に支払う特別退職金負担や、退職給付債務積立不足の償却負担等の特別損失が、通期ではほぼ当初見通し並みに発生するものと予測されます。この結果、税効果会計適用後の当期利益については、5 月時点での予想値を下回る見通しであります。

また、グループをあげての財務体質強化については引き続き精力的に取り組んでおり、さらに下期には川鉄リース株の東京リース株への事業売却の影響も見込まれることから、連結有利子負債削減については、中期経営計画目標を大きく上回る水準で達成できる見通しであります。

以上の結果、当期の連結業績見通しにつきましては、以下のように予想しております。

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期損益
上半期見通し (前回予想)	5,900 程度 (6,000 程度)	210 程度 (280 程度)	130 程度 (200 程度)	30 程度 (80 程度)
通期見通し (前回予想)	12,700 程度 (13,200 程度)	530 程度 (650 程度)	380 程度 (500 程度)	130 程度 (200 程度)

(参考)平成 12 年度実績

(通 期) (13,155) (793) (536) (182)

参考：連結有利子負債残高

平成 13 年 3 月末実績 12,800 億円

平成 14 年 3 月末予想 10,300 億円程度（第二次中期経営計画目標 13,000 億円程度）

平成 13 年度削減額 2,500 億円程度

2. 単独業績見通しについて

単独の業績につきましては、下記の通りと見込んでおります。

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期損益
上半期見通し （前回予想）	3,600 程度 （3,600 程度）	150 程度 （180 程度）	100 程度 （130 程度）	0 程度 （40 程度）
通期見通し （前回予想）	7,400 程度 （7,500 程度）	320 程度 （350 程度）	220 程度 （250 程度）	60 程度 （80 程度）

（平成 12 実績）

（通 期） （7,785） （539） （430） （276）

参考：単独有利子負債残高

平成 13 年 3 月末実績 6,787 億円

平成 14 年 3 月末予想 7,800 億円程度

平成 13 年度増加額 1,000 億円程度

（連結トータルでの資金効率向上を目的としたグループ会社向融資の増加により、単独ベースでは増加）

3. 中間配当について

前述の通り、上半期の業績見通しにつきましては、景況の悪化を受け、厳しい状況が予想されます。更に下半期以降の先行きにも不透明な部分があり、これらを総合的に勘案した結果、当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら実施見送りを本日の取締役会で決議致しました。

以 上